

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は29ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国

語

(60分 100点 (解答番号

1

)

45

)

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

数年前まで海産物の行商の老婆が一人、よくこの団地へまわってきていた。通りに面したどこかの家のドアチャイムを鳴らすと、彼女のひなびた声はひっそりした住宅地によく透る。

「もうーし。奥さん、元気かね」

この声には一種の哀感が漂っていた。明るいな年寄りでいつも皺だらけの顔が笑っているが、海からくる彼女の声はひどくしわがれていた。

通りをめぐって、やがてわたしの家にもやってきた。彼女の客はきまっている。頭に手ぬぐいをかぶり、紺のジャージの上着にモンペ。足には子供用のズックをはいて、ブリキの箱を背負っている。働く老婆の仕事着はちぐはぐだ。玄関先で箱を開けると、

「さあ、奥さん、この美しかイリコを見ちよくれ」

と、銀色に干しあげたイリコを掌ですくって見せる。市販の薄黄色に油焼けたものとは品が違う。

「浜でビチビチビチ踊つちよるのを、その場で釜の湯にくぐらせるとよ。臭味もなかで上物やがね」

イリコ大袋一杯千二百円。二タ袋で二千二百円。イリコを買うと、つぎは真黒い鉄板のような昆布を出して見せる。ほんとうに彼女の持つてくる昆布は、皺もなく固くまるで薄い鉄の板のようなのだ。濃いだしが出る。

「これも大きゅうて美しかもんじやるが」

淡く浜の匂いがするのは海産物からだけでなく、彼女の服から漂ってくるものだ。息子と嫁は海に出て、彼女は浜の仕事を手

伝うかたわら、町へ売りに行くと言う。

このあたりでは地方線の汽車に乗ると、おなじような海産物の箱を背負った老婆達の姿を見る。汽車の乗り降りも通勤客のように慣れていて、足どりも速い。近郊に海があるのでよく眼にする行商の老人の一人である。

イリコにだし昆布にチリメンジャコ。干物ばかりなのに彼女の持つてくる物は美しくて、鋭い。鮮度の高いものは干しても、鋭いというかんじがする。どれもこれも手の指が触れると刺されそうにピンと角が立っている。

彼女のことを、娘のトモコは、

海のばあさん、

と呼んでいる。学校にも入って先生達の客をつかんでいるので、トモコは学校から帰ってくると、

「今日、海のばあさん、家にこなかった？」

と聞く。学校で子供達にも顔を知られているのである。海のばあさんは体が大きい。太つてはいないが若いころはよく筋肉のついていたらしいがっしりとした体格の名残がある。顔の皺は太く荒く、海風にさらされて彫り刻まれたかんじだった。

彼女は北九州の糟屋郡宇美町かすやという所からくる。それで呼び名のほんとうのユ来は、宇美町の行商のばあさんということで、

宇美のばあさん、

が正しいのらしい。いつのまにかそれが、

海のばあさん、

になったのだが、実際彼女はいかにも海からきた人のような風貌ふうぼうを備えている。団地をちよこちよこ歩いている小柄な年寄り達とくらべると、海のばあさんはどこことなく魁偉(4) かいゐで、潮できたえられたサザエやカキの殻に似ている。

ときどきわたしの家にまわってきたとき、昼どきになることがあった。一度不意の雨で家にあがってもらってから、上で弁当をひらいて話をするようになった。売物のブリキ罐かんの箱を開けてメザシの青い銀色に光るのを五、六匹ガス火で焼いて、二人で食べる。

食べながら、海のばあさんがしゃべる。

「××神社の神事があるじゃろが？」

本州と九州のあいだの海峡にある神社の名前を出した。

「海の豊作を願うて、明け方の干潮時に神官がワカメをとってきて<sup>(5)</sup>ホウ納するやろ」

「テレビで見ますけど、昔からやっていたんですね」

「娘のころ、友達とあれはおかしいと話しとったが」

「どうして」

<sup>(6)</sup>「あそこの海峡は渦が巻くので名所やろ。そんな場所に、あげな太い着物の帯のようなワカメが採れるやろか」

あつとおもった。海峡の渦の流れがわたしの眼に浮かんた。車で一時間ほどの所でよく知っている。海のばあさんはメザシの尻尾を歯で切りながら弁当のごはんを突つく。年をとっているのに小魚を食べつけた彼女の歯は良いのである。

「仲間の若い者が集まって悪さをするに<sup>(7)</sup>した。神事のある岩場をしらべて見ると、やつぱりそのあたりには細いひよろひよろしたワカメがはえとるだけよ。それで、よしつと<sup>(7)</sup>言うことになつてな、神事の日朝早くみんなで見に行く<sup>(7)</sup>と案のジヨウ、い

つのまにか太い立派なワカメが水の底にはえてゆらゆらしとるちゃ。漁師が前の日に植えとるんやが」

そこで彼女の仲間達はその大きなワカメを抜いて、みんなで分けて家に帰つたのだと<sup>(8)</sup>言う。さて神主が出てきて神事ははじまる。

「どんなことになつたんですか」

「今年のワカメは育ちが悪うて、不作やと新聞に載つとつた」

海のばあさんはくつくつと何十年も前の快事<sup>(8)</sup>をおもいだして笑つた。

「盗つてきたワカメは食べたの？」

「ああ、味噌汁に入れてね。新聞を読みながら汁椀<sup>(9)</sup>をすすつていた爺ちゃん<sup>(9)</sup>がひと言、今朝のワカメは格別うまいな、ち言うた。年寄りはいらいもんやね。……なんもかもお見通しやが」

メザシを焼いた薄い煙の残る食堂で、彼女は荒れた手に湯呑茶碗ゆのみをかかえて、スリッパを履いて、椅子いすに腰をかけていた。弁当がすむと、また行商に出て行く。

「おおきに、さよなら」

と去る。つぎにくるのは味噌汁のだしをとるイリコが、どこの家も残りすくなくなってくる二カ月後くらいだった。

海のばあさんが行商で団地に姿を見せていたのは、何年間くらいだったろうか。五年か、六年か、わたしがこの家に引越してきたときは、もう彼女の名前は団地の人々がよく知っていたのだから、通算すればもつと長いのだろう。

いつごろからか、彼女の持つてくるイリコや昆布の袋が変わっているのに気がついた。以前はただの茶色っぽい紙の大袋(10)に無造作に詰めてあったのが、きちんとした市販の商品の入っているような厚めのポリ袋に変わっていた。品物は鮮度が良いが、それは前の物とは違っているような気がした。一度イリコの袋に残っていた小さな紙片に、

『鹿児島県××漁協』

の印刷文字を読んだ。

<sup>(11)</sup> 彼女の海は生活上のなにかの変化を受けて、彼女から遠ざかって行つたのがかんじられた。あいかわらずモンペにズック履きで通ってくるが、その間隔もしだいにあくようになった。

ある夏の夕立の日、海のばあさんはひさしぶりに団地に現れ、わたしの家にも寄った。彼女の持つてきたイリコはひと目でわかる油のまわった安物だった。値段も半値で売った。彼女はさぶ濡れぬれだった。わたしは雨傘を彼女に貸したが、もうその傘はもどつてこないような気がした。なぜなら、

「イリコ、やつぱり、おばさんが作っているんですか」

と聞くと、

「そうよ。昔から、自分で作るよ」

と、見えずいたことを言ったからである。行商をやめるとき、彼女はもしかしたら長年の客にも告げないで去ってしまう気がしたのだ。<sup>(13)</sup>彼女の背後に見えていた晴朗な海の色が濁っていた。それと一シヨ<sup>(14)</sup>に××神事の話もどこまでが本当かアテにならな  
いとおもうのだった。

雨の玄関で、傘を借りて出て行く後ろ姿を見送った。

海のはあさんの濡れた服、濡れたモンペ、濡れたブリキの罐、濡れたズック靴の後ろ姿が門へ出て曲がつて消える。そのとき彼女はわたしの眼に、いま海からあがつてきたばかりの人間に映った。戸外は夕立で暗く煙り、彼女の出してきた海も夜の底のように暗い。そして、海のはあさんという呼び名はそんな彼女にふさわしい気がした。

予想どおり、海のはあさんはそれきり行商をやめたのか、ふつつりと消えてしまった。どの家もやがてイリコや昆布を近くの町のスーパーマーケットから買ってくるようになった。そんな冬のはじめのある夕方のことだった。町へ買い物に出て帰っていると、家の玄関のドアのノブに、なにかぶらさがっている物が見えた。門を入り玄関の前になると、一本の蝙蝠傘とビニール袋であった。蝙蝠は彼女に夏の日に貸しあてたもので、柄に見覚えがあった。きちんとノブに落ちないようにかけられていた。ビニール袋をのぞくと大粒のカキが殻に入ったまま詰めこまれている。カキ殻には、緑色の小さなワカメやフジツボがびつりと付着している。

傘のお礼か、お別れの挨拶か、ビニール袋はずつしり重く、ふんふんと磯の匂いを漂わせていた。

(村田喜代子『白い山』による)

(注) ち言うた——と言った

問1 傍線番号(1)・(4)・(8)・(10)・(12)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

1

5

(1) ひなびた声

1

- ① 開放的でのびのびした声  
 ② 迫力のある大きな声  
 ③ 素朴で懐かしさ漂う声  
 ④ 年老いて張りが無い声  
 ⑤ 寂しげな抑揚のない声

(4) 魁偉

2

- ① 取っつきにくいさま  
 ② いかついさま  
 ③ 野性的なさま  
 ④ 頑固なさま  
 ⑤ 荒々しいさま

(8) 快事

3

- ① よろこばしい出来事  
 ② 胸がすくような出来事  
 ③ こっけいな出来事  
 ④ 心温まる出来事  
 ⑤ 味わい深い出来事

(10) 無造作に

4

- ① みつともなく  
 ② そっけなく  
 ③ 気まぐれに  
 ④ ぎこちなく  
 ⑤ 無理矢理に

(12) 見えすいた

5

- ① 節操のない  
 ② 気取った  
 ③ しらじらしい  
 ④ 厚かましい  
 ⑤ 浅はかな

問2 傍線番号(2)・(3)・(5)・(7)・(14)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

6

10

(2)

コ客

6

- ① 別コの問題として扱う
- ② 民族コ有の文化
- ③ 業績不振で解コされる
- ④ 部活のコ問をつとめる
- ⑤ コ独にさいなまれる

(3)

ユ来

7

- ① ユ快に過ごす
- ② 荷物をユ送する
- ③ 企業とユ着する
- ④ 横浜をユ経する
- ⑤ 将来は教ユになりたい

(5)

ホウ納

8

- ① 財ホウを手に入れる
- ② 社会にホウ仕する
- ③ 敵にホウ復する
- ④ かすかなホウ香を放つ
- ⑤ ホウ楽を演奏する

(7)

案のジョウ

9

- ① ジョウ下町を散策する
- ② 劇ジョウで映画祭が開かれる
- ③ 勘ジョウを済ませて店を出る
- ④ フェリーにジョウ船する
- ⑤ 命に別ジョウはない

(14)

一シヨ

10

- ① シヨ般の事情を考慮する
- ② 由シヨのある絵
- ③ シヨ志を貫徹する
- ④ 猛シヨ日が続く
- ⑤ 嘆願書に連シヨする



問3 傍線番号(6)「あつとおもった」のはなぜか。その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークし

なさい。

11

- ① 渦を巻く海峡では立派なワカメが育たないのに、そこで神事を執り行っていることをばかばかしく感じたから
- ② 神聖な神事が、本来立派なワカメが採れそうにない場所で強引に行われていることに失望したから
- ③ 海峡で採れる立派なワカメを使った神事だと思ったからこそ信じていたので、裏切られた気がしたから
- ④ 渦を巻く海峡では立派なワカメが採れないことを知っている海のばあさんの眼力に感心したから
- ⑤ この海峡では立派なワカメが採れるはずがないことを、海のばあさんの話を聞いて改めて思い至ったから

問4 傍線番号(9)「なんもかもお見通しやが」とあるが、「お見通し」の内容としてあてはまらないものを、次の①～⑤の中か

ら一つ選びマークしなさい。

12

- ① 神事の行われる海峡では太いワカメははえないということ
- ② 孫である海のばあさんたちが神事に使われるワカメを抜いたということ
- ③ 自分が食べたワカメが本当は神事に使われるはずのものであるということ
- ④ 今年のワカメは育ちが悪いため神事には使われなかったということ
- ⑤ 用意されたワカメを使って毎年神事が執り行われていたということ

問5 傍線番号(11)「彼女の海は生活上のなにかの変化を受けて、彼女から遠ざかって行った」とあるが、その説明として、最も

適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 海のはあさんは金儲けに走り、長年の客にまでいい加減なうそをついてだますようになった
- ② 海のはあさんは浜の仕事と関わりなくなり、手作りの上質な品物を売ることができなくなった
- ③ 海のはあさんは新しい行商先を見つけたので、この団地付近には前ほど姿を現さなくなった
- ④ 海のはあさんは行商に対してあまり熱心でなくなり、そのせいで長年の客も次第に離れて行った
- ⑤ 海のはあさんは長年つき合ってきた客との関係が悪くなり、行商の仕事を避けるようになった

問6 傍線番号(13)「彼女の背後に見えていた晴朗な海の色が濁っていた」とあるが、これはどういうことを表しているか。その

説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 海のはあさんが別れも告げずに行商をやめるかもしれないことを「わたし」が不安に思ったこと
- ② 既製品を長年の客に売るといふ裏切り行為を平気でする海のはあさんに「わたし」があきれたこと
- ③ 長年親しくつき合ってきた客に対してもうそをつく海のはあさんに「わたし」が不信感を抱いたこと
- ④ 行商の仕事に対してそれほど熱心ではなくなった海のはあさんに「わたし」が憤りを感じたこと
- ⑤ 心を開かず、何を考えているのかわからなくなった海のはあさんを「わたし」が不気味に思ったこと

問7 「海のはあさん」が最後に傘を返しにきた場面から本文中でわかることとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から

一つ選びマークしなさい。

15

- ① 海のはあさんが、長年の客だった「わたし」への感謝の気持ちを伝えにきた
- ② 海のはあさんはまた行商を始めるために、長年の客である「わたし」に挨拶をしにきた
- ③ 海のはあさんは「わたし」の住む地域以外では今でも海産物の行商を続けている
- ④ 海のはあさんは上物の海産物が再び取り扱えるようになったことを暗に知らせにきた
- ⑤ 新しい生活を始めた海のはあさんは、以前よりもずっと幸せにくらしている

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

多様性は、ともすれば人を酔わせ、知性を麻痺させる。現代社会における価値観の分裂を言うことはたやすい。しかし、だからといって、人間の社会の多様性を、「人それぞれ」とひとりで片付けてしまうのは知的な怠惰である。科学者は、より一般に学者というものは、たとえ目の前に一見手に負えないような多様性がある場合にも、決して諦めずに、その中を貫く普遍性を追い求めなければならない。そうでなければ、学問をする甲斐はない。

この宇宙の中の多様性を全て包み込む普遍性などないと諦めてしまったら、人類の歴史が誇るべき多くの知的な成果は存在しなかつただろう。自然の強靱な「持続可能性」が育んできた多様性に対抗するためには、人間の側にも「持続可能」な粘り強い知性が必要となる。そして、叡智が私たちが生きることに資するためには、一筋縄ではいかない多様性の中に飛び込み、それでもなお、普遍性への志向を失ってはならないのである。

注意深い読者は、ここに、一神教的世界観と日本の「八百万の神」のような多神教的世界観をユウ合させる論理的可能性を見ることが出来る。

「多様性」と「普遍性」は必ずしも相容れない概念ではない。とはいっても、過去において、「普遍性」を標榜することが時に多様性を破壊し、モノカルチャー的な世界の実現に力を貸す結果を招いてきたことも事実である。

「普遍性」という概念の用法を誤ると、多様性を育む自然の中の傾向とは異なる方向に世界を導いてしまう。「人間にとっての効用」という単一の原理で割り切つて形成された地上の様子がどのようなものになるかは、大都会の中で自分の周囲を眺めればわかることである。ガラスや金属といった表面的な輝きを剥いでみれば、そこにあるのは灰色に塗り込められた単調さである。熱帯雨林の中のさまざまな生きものの奏でる鳴き声は、そこには響かない。

多様性を刈り込み、この世界を単一の価値観で塗り込めるかに見える「普遍性」概念の作用がある。 (7) 、有用な商品作物を世界中で大量に生産し、単調な生態系を形成してきた人類の営為がある。異なる文化、思想を持つ人々に対する不寛容の

歴史も、「普遍性」概念の暴走である。昨今の「グローバリズム」の嵐の中で、単一の価値観、社会システムが地球上のさまざまな地域を覆うかに見える動きもまた、世界の多様性を減少させる「普遍性」の過剰作用の結果である。世界中に数千の異なる言語があるという現状の中で、そのような言語多様性をないがしろにするかに見える英語への一極化も同様に、「普遍性」概念の行きすぎた適用である。

自然界における生物のありさまを見ればわかるように、ある場所に適した表現形質は、他の場所でも適しているとは限らない。約四億年前のデヴォン紀にすでに化石が見いだされるシーラカンスは、池や川などの淡水域では繁栄できない。生きものたちは、それぞれに適した生態的地位の中で、他の生きものたちと肩を寄せ合って生きている。

「ある場所で成立する命題は、他の場所でも成立する」あるいは「成立すべきだ」と見なされる時、「普遍性」の概念は劇薬的副作用をもたらす。ある社会では有効に機能する制度が、他の社会でも効果を上げるとは限らない。「普遍性」を標榜するということは、ある単一の世界観、価値観を異なる文化背景を持つ人たちに押しつけることを意味するのではない。<sup>9)</sup>「普遍性」概念の誤用は、国際政治においては常に軋轢を生んできた。<sup>10)</sup>ある国で成功した「改革」が、別の国でも成功裡に適用できるとは限らない。全ての場所である原理が成り立つと考えることは、多様性の破壊へと結びつく。

歴史的背景も、文化的な伝統も異なり、すなわち容易には理解できない他者を自らの価値観でハン断してしまうことは、典型的な「普遍性」概念の誤用である。「普遍性」を標榜した他者の異質性に対する不寛容が、時には大量虐殺や民族抹殺といった悲劇に結びつくということを、人類は二十世紀において嫌というほど経験してきた。

地球上のさまざまな生物の種の多様性を生み出す原動力となってきた「突然変異」や「自然淘汰」といった普遍的概念と、世界をモノカルチャー化しかねない「普遍性」の押しつけは、明らかにその成り立ちが違う。両者を混同したままでは、私たちは生きるための道筋を失ってしまうことだろう。

<sup>12)</sup> 人間と他の種は、同等の価値を持つという「ディープ・エコロジー」の思想に基づけば、自らの都合のみによって都市空間をコウ成している人間の行為は、最悪のエゴの表明に他ならない。

化石燃料の枯渇と、地球温暖化の進行、水などの天然資源の不足といった事態は、私たちが、従来はラジカルだと見なされてきた思想をも日常の糧にしなければ、持続可能な生活を営むことができないことを意味している。

もし、これからの人類が「多様性」やそれを育む「持続可能性」に自らの未来を託したいのであれば、また地球が成り立つてきた原理にもう一度寄り添いたいのであれば、私たちは、つまりは、「普遍性」<sup>(13)</sup>という概念自体を変えなければならない。とりわけ、その現実における作用の様式を改めなければならない。

私たちは、「普遍性」<sup>(14)</sup>概念を精査しなければならぬ。誤用や不適切な適用の事例に目をとられて、多様性と普遍性を二項対立的な図式の下にとらえることで満足してはいけない。多様性を生み出す「普遍性」の力強い作用の芯をしつかりと把握しなければならぬのである。

「普遍性」が多様性を生み出すのは、それが、結果ではなくプロセスに作用する時である。ダーウィンが明らかにしたように、生物の生存、子孫の繁栄にかかわる普遍的な拘束条件は、実際、驚くべき生物多様性を生み出す原動力になっている。生物の種の進化を司る原理は、地球上のどの場所でも同じであった。それでも、今日のような生物多様性が生じた。文化の側面においては、「ミーム」<sup>(注4)</sup>(文化的遺伝子)の進化が、生物進化とのアナロジー<sup>(注5)</sup>において議論されてきた。ミームもまた、生物の「表現型」の一部であり、その多様性を促したのも生物進化と同一の原理であるというのが、進化生物学、進化心理学の考え方である。

「普遍性」は、動的プロセスの結果として生まれる表現型自体にかかわると見なされるべきではない。ただ一つの「美」の規範があり、唯一の「正義」があると誤信してしまう時に、「普遍性」は多様性を刈り込む鎌<sup>かま</sup>の役割をニナ<sup>(16)</sup>ってしまう。主体にとって何が「美」か、何が「正義」かということを決定する普遍的な動的プロセスが存在するのであって、その結果生み出されるものはさまざまであるという視点が、より大切である。

「普遍性」を動的プロセスにおいてとらえるということは、別言すれば、平凡な事象とケツ<sup>(17)</sup>出した出来事がどちらも同じ原理によつて導かれているということ認識することである。

(18)

な事績を残す天才も、ありきたりの日常を送る凡人も、社会

の中でその人格や才能がどのように形成されたかという動的な視点から見れば、同じ普遍的原理に基づいている。

世界を単純に割り切ろうとする原理主義も、人それぞれだといふ  
[19] 主義も、知的怠惰のモラル・ハザード(注6)から逃れられない。「みんな違ってみんないい」という多様性の恵みが普遍的原理によってもたらされることを精査してこそ、私たち人類は本当の意味での「多様性讃歌」を奏でることができる。

(茂木健一郎『疾走する精神』による)

(注1) モノカルチャー——ここでは、単一的な文化のこと

(注2) グローバリズム——国家を超えて、地球全体を一つの共同体と見なす考え方

(注3) ラジカル——過激・極端なさま

(注4) ミーム——人々の間で心から心へとコピーされる文化的情報のこと。遺伝子が子孫へとコピーされる生物学的情報であるように、ミームも文化的情報が人から人へとコピーされると言われる

(注5) アナロジー——類似

(注6) モラル・ハザード——倫理観・道徳の欠如

問1 傍線番号(1)・(2)・(4)・(10)・(14)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

16

～

20

(1) 生きることに資する

16

- ① 生きていく指針を与える
- ② 生きている証あかしになる
- ③ 生きるうえで役に立つ
- ④ 生きる価値を見出みいださせる
- ⑤ 生き残るための真理となる

(2) 一筋縄ではいかない

17

- ① うまくまとまらない
- ② 複雑で納得できない
- ③ 一義的に定義できない
- ④ 簡単には扱えない
- ⑤ 筋道が通らない

(4) 標榜する

18

- ① 公然と掲げ示す
- ② はき違える
- ③ もてはやす
- ④ 目標にする
- ⑤ 都合よく優先させる



(10) 軋轢を生んできた

19

- ① 各国の価値観の違いを明らかにしてきた
- ② 世界中の国々から非難されてきた
- ③ 国と国との競争心を煽<sup>あお</sup>ってきた
- ④ 世界の国々の均衡を崩してきた
- ⑤ 国と国との関係を悪くしてきた

(14) 精査

20

- ① 公平な基準で評価する
- ② よりよいものとして選ぶ
- ③ 細かな点まで詳しく調べる
- ④ はつきりと正確に区別する
- ⑤ 新たな視点で組み立て直す

問2 傍線番号(3)・(11)・(12)・(16)・(17)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

(3) ユウ合

21

- ① 遊園地のユウ待券をもらう
- ② ユウ便で小包を送る
- ③ ユウ壮なパレードを見る
- ④ 銀行のユウ資を受ける
- ⑤ 一刻のユウ予もない

(11) ハン断

22

- ① ハン人を逮捕する
- ② 古文書のハン読に苦しむ
- ③ 声が室内にハン響する
- ④ 荷物をハン入する
- ⑤ 初ハン本を手に入れる

21

25

(12)

23 コウ成

- ① 駅のコウ内に貼り出す
- ② 一括してコウ入する
- ③ コウ直した考え方
- ④ 英会話のコウ師を務める
- ⑤ 新発見にコウ奮する

(17)

25 ケツ出

- ① 雨天ケツ行する
- ② ピカソの最高のケツ作だ
- ③ 劇団をケツ成する
- ④ 身のケツ白を証明する
- ⑤ ケツ統書つきの犬を飼う

(16)

24 ニナつて

- ① 悲タンにくれる
- ② タン生日を祝う
- ③ 悪事に荷タンする
- ④ タン酸水を飲む
- ⑤ タン精して花を育てる

問3 傍線番号(5)「多様性を育む自然の中の傾向とは異なる方向」を具体的に示すものとして最も適切なものを、次の①～⑤の

中から一つ選びマークしなさい。

26

- ① 熱帯雨林の中のさまざまな生きものが鳴き声を奏でている
- ② 有用な商品作物を世界中で大量に生産してきた人類の営為
- ③ 地球が成り立ってきた原理や生物の進化を司る原理
- ④ 生きものがそれぞれに適した生態学的地位の中で生きている
- ⑤ 生物進化の過程で「突然変異」や「自然淘汰」がおこる

問4 傍線番号(6)「多様性を刈り込み、この世界を単一の価値観で塗り込めるかに見える「普遍性」概念の作用」とあるが、こ

の作用はどのような時に起こると述べられているか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

27

- ① 多様性と「普遍性」を二項対立的な図式でとらえることで満足してしまう時
- ② ある国で成功した「改革」がすぐれていると考えられる時
- ③ これまでラジカルだと見なされてきた思想を当然のことと考える時
- ④ ただ一つの「美」の規範や唯一の「正義」があると誤信してしまう時
- ⑤ 何が「正義」であるかを決める動的プロセスにおいて普遍的概念をとらえる時

問5 空欄番号

一つずつ選びマークしなさい。

(7)

・ (18)

28

・ (19)

30

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ

28 (7)

⑤ ④ ③ ② ①

むしろ もし たとえば ところが あるいは

29 (18)

⑤ ④ ③ ② ①

本来的 現実的 抽象的 画期的 刹那的せつな

30 (19)

⑤ ④ ③ ② ①

相対 博愛 主意 絶対 平等

問6 傍線番号(8)「英語への一極化も同様に、「普遍性」概念の行きすぎた適用である」とあるが、その理由として最も適切な

ものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

31

- ① 単一的な価値観に基づいて、一言語にすぎない英語の使用を偏重することは、言語の多様性を軽んじ、減少させることにつながるから
- ② 英語よりも優れた言語がたくさんあることに目を向けず、英語の使用のみを強力に推し進めるのは言語学的にも誤っているから
- ③ 英語圏の国々が自国の国力を誇示するために、英語圏以外の国に英語の使用を強要するのは暴力的な押しつけでしかないから
- ④ 世界中に存在する他の数千の言語より優れていることを理由に、英語の使用を推進するのは、他の言語の進化を妨げることになるから
- ⑤ 英語の使用を強要することは、言語がその国の思想や価値観をもっともよく表すものであるということを見做すものだから

問7 傍線番号(9)「普遍性」概念の誤用」とあるが、これにあてはまらないものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしな

さい。

32

- ① 多様性の破壊
- ② 他者の異質性に対する不寛容
- ③ 世界のモノカルチャー化
- ④ 突然変異・自然淘汰
- ⑤ 自らの価値観の押しつけ

問8 傍線番号13 「普遍性」という概念自体を変えなければならない」とあるが、これはどういうことか。その説明として、最

も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① 歴史的な背景や文化的な伝統も異なる簡単には理解できない他者の価値観を学び、自らの価値観としなければならぬ  
ということ
- ② 多様性の価値を認めた上で、すべての多様性を包み込むような「普遍性」の存在を明らかにしなければならぬ  
ということ
- ③ 「普遍性」を動的プロセスにおいてとらえ、「普遍性」が多様性を生み出す原動力であることを認識しなければならぬ  
ということ
- ④ 多様性と「普遍性」を二項対立的にとらえることをやめて、多様性の方がすぐれていることを理解しなければならぬ  
ということ
- ⑤ これまでのように「普遍性」概念を押しつけることをやめて、普遍的概念を単一の価値観として適用しなければならぬ  
ということ

問9 傍線番号(15)「生物進化と同一の原理」とあるが何が「同一」なのか。その内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の

中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 「普遍性」が動的プロセスの結果にかかわること
- ② 「普遍性」が結果でなくプロセスに作用すること
- ③ ミームが生物の「表現型」の一部であること
- ④ 「普遍性」が唯一の「正義」を生み出すこと
- ⑤ 普遍的な拘束条件が存在すること

問10 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① 人間が自らに有用な商品作物を世界中で大量に生産したことが世界の多様性を育むことにつながった
- ② 天然資源の不足という危機的な事態は、世界が単一の価値観によって形成されたことが原因で起こった
- ③ 多様性と「普遍性」は相容れない概念なので、「普遍性」概念の現実における作用の様式を改めなければいけない
- ④ 生物の種はどの場所であっても同じ普遍的原理によって進化したが、その結果生み出されたものは多様であった
- ⑤ 「普遍性」の誤用を防ぐためには、人間と他の種が同等の価値を持つという思想について正確に学ぶ必要がある



第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

中比、三井寺に智興内供と云ひて、たふとき人ありけり。年高くなりて、いかなる宿業にてか、世の中こちをして、限りに  
なりければ、弟子ども集まりて泣き悲しむ時、晴明と云ひて、神如なる陰陽師ありけり。これを見て云ふやう、「此の度は、限  
りある定業なり。いかにも叶ふべからず。それにとりて、志深からん弟子なんどの替はらんと思へるあらば、祭りたてまつりて  
ん。其の外には、いかにもいかに力及ばず」となん云ひける。

多くの弟子どもさしつどへるほどに、此の事を聞きて、内供は苦しみのたへがたきままに、「もし、替はる人やある」と、並  
び居たる弟子どもを次第に見まはせど、言にこそ云へど、誠には捨てがたき命なれば、おのおの色を作りて伏し目になりつつ、  
ひとりとして「我、替はらん」と思へるけしきなし。

其の時、証空阿闍梨と云ふ人、年若くて弟子の中にありけり。弟子にとりては末の人なれば、誰も思ひよらぬほどに、進みて  
内供に申すやう、「我替はりたてまつらんとなり。其の故は、法を重くし、命を軽くするは師に仕ふる習ひなり。いかで、此の事  
を聞きながら、身命を惜しまん。いたづらに捨つべき身を、今三世の諸仏にたてまつりて、人界の思ひ出にせん。さらにいたま  
しからず。但し、年八十なる母、今に侍り。我より外に子なし。もし、許されを蒙らずは、みづから身を捨つるのみにあらず、  
ふたりが命尽きぬべし。よくよくことわりを申しきかせて、暇を乞ひて帰りまゐらん」と云ひて、座を立ちぬ。内供をはじめ、  
これを聞く人々、涙を流してあはれむ事限りなし。

『発心集』による

(注1) 晴明——安倍晴明のこと

(注2) となり——「といふなり」の略

(注3) 三世——前世・現世・来世のこと

問1 傍線番号(1)・(3)とはどういうことを表しているのか。その説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそ

れぞれ一つずつ選びマークしなさい。

36

37

(1) 限りになりけれ

36

- ① 内供は、自分の身の回りの世話ができなくなったということ
- ② 内供は、これ以上の修行は無理だということ
- ③ 内供は、寿命の続く限り仏の教えを説こうとしたということ
- ④ 内供は、今にも死にそうになっているということ
- ⑤ 内供は、妻と別れることになったということ

(3) 色を作りて

37

- ① 弟子たちはそしらぬふりをしているということ
- ② 弟子たちは恥ずかしそうにしているということ
- ③ 弟子たちは顔色を変えているということ
- ④ 弟子たちは心配そうな表情でいるということ
- ⑤ 弟子たちは悲しそうに涙をためているということ

問2 傍線番号(2)・(7)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。 38

・ 39

(2) 祭りたてまつりてん 38

① ラ行四段活用動詞の連用形＋謙讓の補助動詞＋強意の助動詞＋意志の助動詞

② ラ行四段活用動詞の連用形＋謙讓の補助動詞＋願望の終助詞

③ 名詞＋謙讓の動詞＋強意の助動詞＋推量の助動詞

④ 名詞＋尊敬の動詞＋願望の終助詞

⑤ ラ行四段活用動詞の連用形＋謙讓の補助動詞＋強意の助動詞

(7) 捨つるのみにあらず 39

① タ行下二段活用動詞の連体形＋格助詞＋格助詞＋ラ行変格活用動詞未然形＋打消の助動詞

② タ行下二段活用動詞の連体形＋副助詞＋格助詞＋ラ行変格活用動詞未然形＋打消の助動詞

③ タ行下二段活用動詞の連体形＋副助詞＋断定の助動詞＋ラ行変格活用動詞未然形＋打消の助動詞

④ タ行下二段活用動詞の連体形＋格助詞＋断定の助動詞＋ラ行変格活用動詞未然形＋打消の助動詞

⑤ タ行下二段活用動詞の連体形＋名詞＋断定の助動詞＋ラ行四段活用動詞未然形＋打消の助動詞

問3 傍線番号(4)「此の事」の指す内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

40

- ① 仏の弟子といっても、地位が低ければ救われることはないということ
- ② 信仰心の深い弟子が師の身代わりになることで、師の命が助かるということ
- ③ 師が自分の看病を献身的にしてくれる弟子を求めているということ
- ④ 仏の教えを重んじ命を捨てることによつて、浄土に生まれ変われるということ
- ⑤ 地位の高い弟子であるのに、誰も師の身代わりにならうとしないということ

問4 傍線番号(5)・(6)の口語訳として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

41

42

- (5) さらにいたましからず 41
- ① まったく不本意ではない
- ② その上痛くなることはない
- ③ それ以上に恐ろしいことはない
- ④ 少しも思い残すことはない
- ⑤ 決してつらくはない

(6) 許されを蒙らずは

42

- ① 弟子としての位が高くなることが許されないならば
- ② 身代わりになる前に母に会いに行くことが許されないならば
- ③ 母がこの先生きることが許されないならば
- ④ 三世の諸仏にわが身を差し上げることが許されないならば
- ⑤ 師の身代わりになることが許されないならば

問5 傍線番号(8)「ふたり」とは、誰と誰のことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

- ① 証空阿闍梨とその母
- ② 証空阿闍梨と智興内供
- ③ 証空阿闍梨の母と智興内供
- ④ 証空阿闍梨と清明
- ⑤ 智興内供と清明

43

問6 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

44

- ① 晴明は、自分が未熟なので、内供の病を治癒することはできないと言った
- ② 証空阿闍梨は、内供の弟子の中で地位は低かったが、内供に特にかわいがられていた
- ③ 内供はあまりに病がつかいので、自分の身代わりになってくれる弟子がいるかどうかを尋ねた
- ④ 証空阿闍梨の母も息子と同様に信仰心の篤い女性で、いつも往生を願っていた
- ⑤ 証空阿闍梨は、人には宿命があつてそれからは逃れることはできないと悟っていた

問7 本文の出典である『発心集』の作者の作品として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

- ① 土佐日記
- ② 枕草子
- ③ 徒然草
- ④ 方丈記
- ⑤ 山家集

45